

平素より大変お世話になっております。

粒子線医療センターだより第3号をお届けいたします。

第3号では肝胆膵の悪性腫瘍についてご紹介するとともに、肝胆膵外科医の立場から神戸大学肝胆膵外科の李先生からいただいたコメントも掲載しました。

肝胆膵の悪性腫瘍に対する根治治療は外科切除がベストです。しかし根治切除が不可能または非常に困難な症例は少なくありません。兵庫県立粒子線医療センターでは、長年、肝胆膵の悪性腫瘍に対する陽子線治療、重粒子線治療を行ってきました。

最近では、陽子線治療、重粒子線治療に加えて薬物療法、血管内治療、外科治療(審査腹腔鏡など)を行う事で治療成績の向上を目指しています。

肝胆膵の悪性腫瘍の治療に難渋されておられる皆様のお役に立てれば幸いです。



院長 沖本 智昭

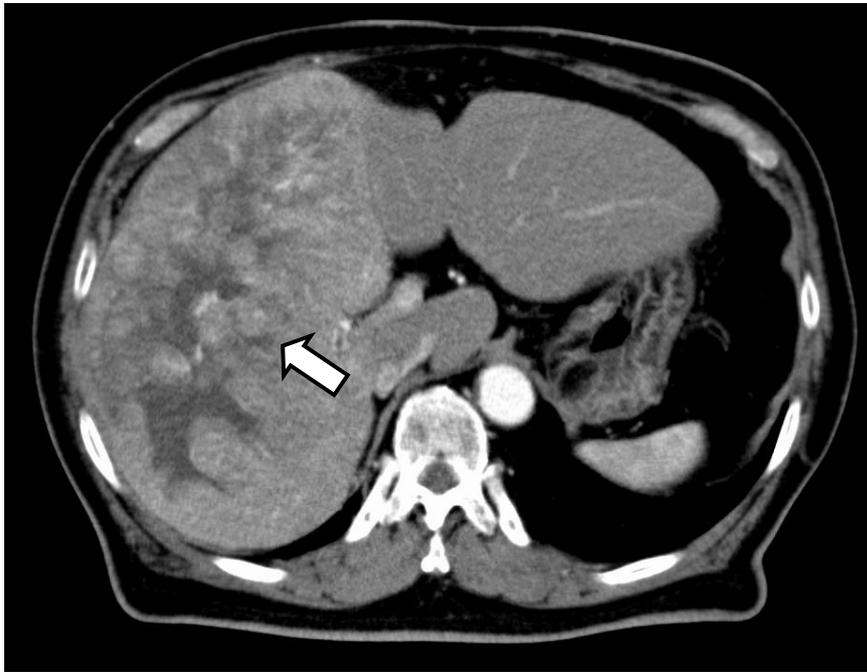
平素より大変お世話になっております。

神戸大学肝胆膵外科では主に肝胆膵領域における悪性腫瘍の診療を行っております。肝胆膵領域のがんは、診断・治療ともに最も難しいがんの一つであり、専門的な知見と豊富な経験が求められます。外科手術のみならず、肝胆膵領域の内科、放射線科と定期的にカンファレンスを持ち、それぞれの専門家から幅広い意見を求め、化学療法、放射線治療、緩和治療、何れの領域でも、広く普及した治療法から先進的治療まで、さまざまな角度から最善と考える治療を提供できる技術と体制を整えています。

神戸大学肝胆膵外科では、毎週水曜日に、粒子線医療センター、神戸陽子線センターとの消化器合同 TV カンファレンスと一緒に参加させていただいております。カンファレンスでは、粒子線治療の候補となる消化器疾患の症例に対する最適な治療法を肝胆膵外科医、消化器内科医、放射線治療医、放射線診断医、看護師、放射線技師、医学物理士など多職種で検討しています。検討する症例に関しては、時には切除可能となる症例も認めますが、多くは、局所進行切除不能膵がん、残肝の不足にて切除困難な肝門部胆管がんや肝臓がん、腎機能低下にて手術では透析を免れないような肝臓がん、高齢で手術リスクが高い肝胆膵領域のがんなどで、外科および内科的治療だけでは、思ったような期待された効果が望めない症例が多いのが事実です。一方で、粒子線治療は、近接する消化管や腹腔内臓器の照射安全域を維持しながら、腫瘍のある部分に効率よく照射を行うことで、外科・内科治療以上の、有効な局所治療および良好な局所制御率を安全性を保ちながら、行うことができます。肝胆膵領域における粒子線治療は有効な治療選択肢のひとつであり、今後ますます需要が高まるとともに、重要な役割を担っていく治療と考えています。



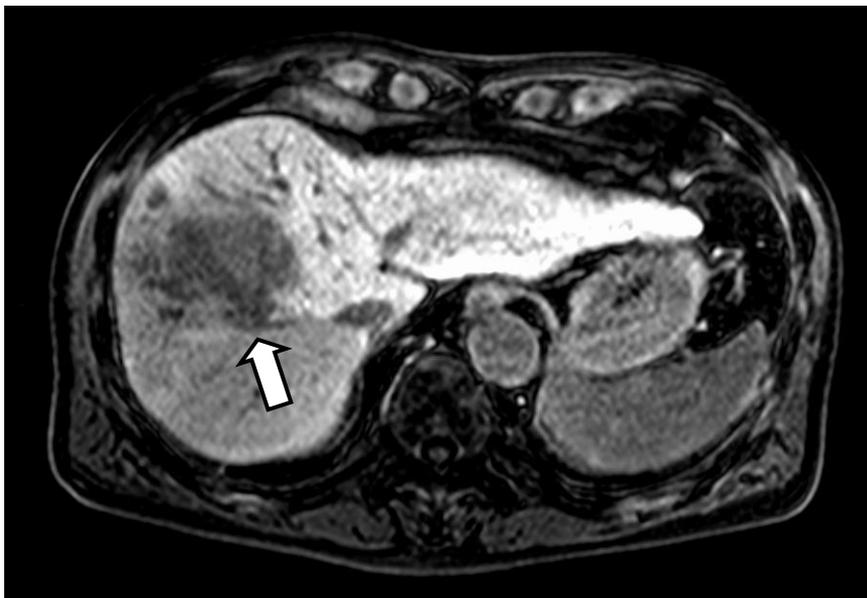
神戸大学医学部附属病院
肝胆膵外科 李 東河



治療計画時造影 CT

肝機能障害と下腿浮腫にて精査、造影 CT にて長径 200mm を超える肝腫瘍が指摘され、肝細胞がんと診断された。切除適応がなく当センター紹介となった。

根治を目的として陽子線治療（76GyE/20 回）を施行した。



治療計画時造影 MRI

ドックの画像検査で肝腫瘍指摘、精査にて肝細胞がんと診断され、肝動脈化学塞栓療法（TACE）とラジオ波焼灼療法（RFA）が繰り返されたが腫瘍は増大し、門脈腫瘍栓も認められたため、当センター紹介となった。

根治を目的として重粒子線治療（66GyE/10 回）を施行した。



治療計画時造影 CT

消化器症状のため近医受診し、精査にて切除不能局所進行膵頭部がんと診断され当センター紹介となった。

Gemcitabine 同時併用の陽子線治療（67.5GyE/25回）を施行した。



治療計画時造影 CT



近医にて肝機能異常を指摘、精査にて肝門部胆管がんと診断された。術中に対側肝管、総胆管への浸潤を認めたため切除不能と判断された。根治的粒子線治療を行うため、術中にスペーサー（消化管と腫瘍との間隙）として肝下面に大網が留置された。

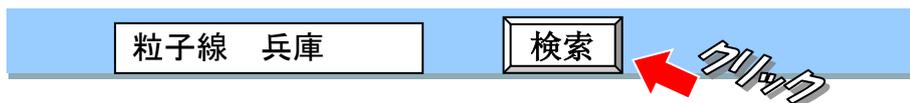
その後当センターにて重粒子線治療（76GyE/20回）を施行した。

陽子線治療・重粒子線治療の診療区分について

- A. 陽子線治療及び重粒子線治療が保険診療で施行可能な疾患
手術による根治的な治療法が困難である限局性の骨軟部腫瘍、頭頸部悪性腫瘍（口腔、咽喉頭の扁平上皮癌を除く。）
限局性及び局所進行性前立腺がん（転移を有するものを除く。）
- B. 陽子線治療のみが保険診療で施行可能な疾患
小児腫瘍（限局性の固形悪性腫瘍に限る。）
- C. 陽子線治療が先進医療で施行可能な疾患
頭頸部腫瘍（脳腫瘍を含む。）、肺・縦隔腫瘍、消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、泌尿器腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍（いずれも根治的な治療法が可能なものに限る。）
- D. 重粒子線治療が先進医療で施行可能な疾患
肺・縦隔腫瘍、消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、泌尿器腫瘍、乳腺・婦人科腫瘍又は転移性腫瘍（いずれも根治的な治療法が可能なものに限る。）
- E. 陽子線治療及び重粒子線治療が自由診療で施行可能な疾患
上記の保険診療、先進医療で施行できない疾患だが、当院、兵庫県立がんセンター、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院、神戸大学附属病院、IHI 播磨病院、津山中央病院の医師による協議（カンサーボードと呼ばれています。）で認められた疾患

ご紹介の手順

当センターのHPより、疾患ごとの様式をダウンロードし FAX で送信ください。



●セカンドオピニオン

医療機関・患者様のいずれでも予約ができます。

HPから様式をダウンロードし、FAX送信していただくか、お電話でも予約可能です。

●メール相談

粒子線治療の適応についてのご相談を随時受け付けております。

詳しくはHPをご参照ください。

兵庫県立粒子線医療センター

〒679-5165

兵庫県たつの市新宮町光都 1-2-1

電話番号:0791-58-0100

FAX 番号:0791-58-2600

<https://www.hibmc.shingu.hyogo.jp>